

令和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号：12102

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2021

課題番号：20K22161

研究課題名（和文）「海外戦没女性」顕彰のジェンダー研究：第一次世界大戦期アメリカの事例から

研究課題名（英文）Gold Star Women in World War I

研究代表者

望戸 愛果（Moko, Aika）

筑波大学・人文社会系・研究員

研究者番号：40880282

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、第一次世界大戦中・戦後期のアメリカにおいて行われた「海外戦没女性」顕彰の歴史的・社会的な意味を明らかにすることに取り組んだ。本研究が分析対象とする「海外戦没女性」とは、戦地へ従軍し同地で戦没したアメリカ人女性を指す。研究対象とする時期は、第一次世界大戦アメリカ参戦から戦間期にかけてとした。アメリカにおける第一次世界大戦研究の大多数が「海外戦没女性」を等閑視しており、本研究はこれを可視化することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の研究成果の学術的意義は、以下の2点に集約される。第一に、従来論じられてこなかった第一次世界大戦期・戦後期の「海外戦没女性」に注目することによって、戦没者顕彰とジェンダーの関係性を歴史社会学的に解明することに貢献した。第二に、日本ではほとんどなじみのない軍隊の人的資源政策をめぐる研究の蓄積を学問潮流に基づいて整理し、なおかつ、それぞれの潮流におけるジェンダー分析の位置付けを示すことができた。

研究成果の概要（英文）：This study reveals the historical and social significance of honoring "Gold Star Women" in the United States during and after World War I. The term "Gold Star Women" in this study refers to American women who served in war zones and died there. The scope of this study is from the U.S. entry into World War I to the interwar period. The majority of World War I studies in the U.S. have overlooked "Gold Star Women." This study succeeded in making them visible.

研究分野：社会学

キーワード：アメリカ合衆国 戦争体験 歴史社会学 ジェンダー 第一次世界大戦

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は博士課程進学以降、第一次世界大戦後アメリカにおける退役軍人組織のジェンダー分析に取り組んできた。一橋大学大学院にて社会学博士号を取得した後は、日本学術振興会特別研究員 PD として主に「女性海外従軍連盟 (WOSL)」の創設過程の研究に取り組んだ。1921 年に全米組織として創設された WOSL は、アメリカにおける「初めての女性退役軍人組織」として位置づけられる組織であるが、WOSL の創設過程を詳細に論じた研究はアメリカにも存在しなかった。研究代表者はアメリカのアーカイブに残された史資料の分析に基づいてこれを解明し、その研究成果を 2019 年に『戦争社会学研究』の査読付き論文「退役軍人としての女性」として刊行した。WOSL が組織創設後に最初に取り組んだ活動が、海外で戦没したアメリカ人女性の全米規模での顕彰であったことは同論文のなかで指摘したが、本研究はその顕彰過程をより詳細に明らかにするために開始された。

2. 研究の目的

第一次世界大戦期アメリカの海外戦没者研究の主要な分析対象は男性戦没者に限られてきた。本研究は従来等閑視されてきた「海外戦没女性」の存在を可視化する。戦中と戦後期の双方を検討することによって、戦没者顕彰のジェンダー化されたプロセスを動的に析出することが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究では、以下の研究方法を用いた。

(1) 戦争・軍隊とジェンダーに関する先行研究のサーベイ、およびそれらについての理論的な検討という両面から研究を実施した。

(2) 第一次世界大戦期「海外戦没女性」についての一次史料の入手、およびそれらについての詳細な分析を実施した。

(3) 「軍隊・戦争とジェンダー」研究および「軍事化とジェンダー」研究に寄与するアメリカの学術書の翻訳および訳者解題の執筆に取り組んだ。

4. 研究成果

(1) 令和 2 年度には、海外戦没女性研究にとって重要な意味を持つ、軍隊による女性・マイノリティの動員に関するアメリカの政治・社会学的な先行研究の総覧・整理を行った。先行研究の整理・分析から得られた知見をもとに執筆した論文を、戦争社会学研究会の学会誌『戦争社会学研究』へ寄稿した。論文のタイトルは「軍隊の人的資源政策 合理主義、文化主義、構造主義」であり、アメリカ合衆国において行われてきた軍隊の人的資源政策の比較政治・社会学的研究に注目し、合理主義、文化主義、構造主義、という三つの学問潮流から概観・整理したものである。整理を行う際には、ジェンダーの視点からの理論的検討を行い、それぞれの学問潮流の長所と短所を明確化した。本研究の初年度中に、先行研究の整理およびそれらについての分析に基づいた学術論文をまとめることができたこと、そして同論文が戦争社会学研究会の学会誌に掲載されることとなったのは、研究を進めるうえでの大きな進展であった。

(2) 令和 2 年度は、上記の内容に加え、アメリカにおける第一次世界大戦「海外戦没女性」についての海外史料調査の準備作業を積極的に行った。また、第一次世界大戦後の女性従軍体験者をめぐる最新の研究状況を調査し、国内でも入手可能な海外文献を可能な限り入手することに務めた。

(3) 令和 2 年度中に、人文書院より訳書『バナナ・ビーチ・軍事基地 国際政治をジェンダーで読み解く』を出版した。原書 (*Bananas, Beaches and Bases: Making Feminist Sense of International Politics*) の著者である政治学者のシンシア・エンローは、1980 年代から国際政治や軍隊のジェンダー分析に取り組んできたパイオニアとして知られており、現在アメリカ合衆国マサチューセッツ州のクラーク大学で研究教授を務めている。英語の原書はアメリカではカリフォルニア大学出版局より 1990 年に初版が出版されている。2014 年に新たに出版された第二版は、現時点における最新版であり、訳者としてこの第二版の全訳、索引の作成、および訳者解題の執筆を行った。同書を翻訳・刊行したことと関連して、エンローの著書を中心としたジェンダー研究書についての書評の執筆や、エンローが寄稿した日本の読者へのメッセージの翻訳・紹介といった作業にも積極的に取り組んだ。こうした作業は、日本における「軍隊・戦争とジェンダー」および「軍事化とジェンダー」をめぐる研究の発展にとって重要な意味を持つと考えている。

(4) 令和 3 年度には、第一次世界大戦「海外戦没女性」が戦地で書き著した遺文集の所在を確認し、入手することができた。新型コロナウイルスの影響で同遺文集の所在確認に時間を要したが、先行研究によってこれまで着目されてこなかった「海外戦没女性」の遺文という貴重な一次史料の分析に取り組むことができたことは、大きな成果であると考えている。分析の成果は現在研究代表者が所属している立教大学アメリカ研究所にて報告し、論文化する予定である。

(5) 前年度にシンシア・エンローの主著『バナナ・ビーチ・軍事基地 国際政治をジェンダーで読み解く』を翻訳・刊行したことと関連して、令和3年度には「軍隊・戦争とジェンダー」および「軍事化とジェンダー」についての講演会・研究会報告を複数回行った。とりわけ、2021年7月10日に立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターにて行った招待講演「シンシア・エンローにおける「軍事化」概念」(オンライン開催)では、「軍事化」概念に関心を持つ他の研究者たちと有意義な討論を行うことができた。

これらの成果を「『戦争体験』のジェンダー学」という研究代表者独自の分析枠組みへと接合し、さらなる研究発展につないでいきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 望戸愛果	4. 巻 5
2. 論文標題 軍隊の人的資源政策 合理主義、文化主義、構造主義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 戦争社会学研究	6. 最初と最後の頁 210-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 望戸愛果
2. 発表標題 シンシア・エンローにおける「軍事化」概念
3. 学会等名 立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター、自衛隊基地の地域社会史プロジェクト、第7回研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 望戸愛果
2. 発表標題 『バナナ・ビーチ・軍事基地』を読む 国際的なことは個人的なこと
3. 学会等名 移動・開発・人口とジェンダー研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 望戸愛果
2. 発表標題 バナナ・ビーチ・軍事基地
3. 学会等名 池袋アメリカ史研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 シンシア・エンロー著、望戸愛果訳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 483
3. 書名 バナナ・ビーチ・軍事基地 国際政治をジェンダーで読み解く	

〔産業財産権〕

〔その他〕

国際的なことは個人的なこと：ジェンダーが世界を動かす https://honto.jp/booktree/detail_00013088.html 『バナナ・ビーチ・軍事基地』日本語版の読者の皆さんへ https://note.com/jimbunshoin/n/nb05ad1dc7d52 『バナナ・ビーチ・軍事基地』邦訳リスト http://www.jimbunshoin.co.jp/book/b524795.html

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------